

備えあれば憂いなし

国立病院機構埼玉病院
臨床検査技師長
日吾 雅宜

“普段から準備が整っていれば、不測の事態が起きて心配はいらない。”このように昔から云われています。

私の自宅は平成9年12月に建築しました。そしてその1ヶ月後の平成10年1月15日、成人の日に関東地方は大雪に見舞われました。家の屋根はデザインを重視するあまり急勾配にしたことが裏目に出てしまいました。屋根に積もった雪が落下し、隣家のカーポートの屋根を破壊する事態となってしまいました。カーポートは修繕させていただきましたが、効果的な再発防止策が見つからないまま時間が過ぎていきました。その間、降雪の予報が出るたびに家族全員で心を痛めていました。

その後、検討を重ねた結果、軒先部分までカバーできる大がかりなフェンスを壁面に取り付けすることにいたしました。設置作業が終了したのは平成26年1月でした。なんとその翌月、2月15日に過去100年間で一番の大雪が降りました。屋根には約50cmの雪が積もりましたが見事にフェンスが雪を受け止め、落下することはありませんでした。「九死に一生を得る」とは正にこのことだと実感しました。備えというよりも対策がとれていれば、少なくとも大雪に対しては安心できる状況となりました。

不測の事態に備えることは簡単なことではありません。起きるであろう事象が推測できれば対策をとることもできます。ハードディスクのバックアップ

をとる、ノロウイルス対策として嘔吐物処理グッズを用意する、暴力対策として刺股（さすまた）を常備するなどです。

予測不可能な地震や災害に対しては残念ながら「備えあれば憂いなし」とはいきません。しかし、私たちの未来には明るい部分もあります。今は水素で自動車が動く時代です。「世界初の“水素発電所”を東京湾岸に建設、2015年に90MW（メガワット）で商用化へ」というニュースもインターネットで流れました。iPS細胞による再生医療は今まで治療できなかった疾病にも貢献することでしょう。「ヒューマンゲノムプロジェクト」の完成により、すべてのヒト遺伝子のDNA塩基配列が解読されました。遺伝子工学の進歩でがんの解明もさらに進むでしょう。地殻変動の分析技術は非常に発達しています。近い将来には地震発生に関しても高い確率で予知できる日が必ず来ると思います。今後の科学の発展に期待し、人類の英知を結集すれば自然災害にも打ち勝ち、適切な“備え”ができる時が来ると信じたいです。

さて、国立医療学会では、会員の皆様に学会誌への積極的な投稿をお願いしております。原著、総説、論説、報告、シリーズ記事、誌上討論などを募集中です。多くの投稿をお待ちしております。どうぞよろしくお願い申し上げます。